

ハタケシメジ発生不良菌床を用いた効率的発生技術の開発

平成 22 年度（岡三加藤文化振興財団助成金）

南 昌明

ハタケシメジ生産現場での発生不良等を改善し経営の安定化をはかるため、発生不安定な種菌、菌床から効率的に子実体を誘導する手法の開発を行った。

1. 発生不良菌床からの子実体誘導技術の開発

子実体形成能力の欠損したハタケシメジ菌床に、発生可能な菌床（亀山1号）から子実体原基や菌床断片を移植することによる効率的な子実体誘導方法を開発するための試験を行ったところ、①不良株未処理区では原基形成が見られず子実体の発生は見られなかったが、②原基移植区では、発生良好菌床区⑧と比較して77.8%の発生量が見られ、また、菌床断片を移植した処理区③～⑦については、移植した菌床断片より原基形成が見られ、移植した菌床断片の上面または側面から319.1±92.1～617.0±65.7 gの発生があった。以上のことから、子実体形成能力の欠損したハタケシメジ菌床に、発生可能な菌床の子実体原基や発生可能な菌床の一部を移植することにより、正常なものと比べ発生期間は長くなるものの、子実体を誘導できることが確認できた。

表-1. 各処理区における子実体発生量

処 理 区	供試数 (個)	発生日数 (日)	子実体 発生量(g)
①不良株未処理区	24	—	—
②原基移植区	25	10.3	539.0± 85.5
③1/8 縦切菌床移植区	17	27.0	424.5±117.9
④1/4 横切菌床移植区	16	26.1	337.9±130.3
⑤1/8 縦切菌床 2 枚移植区	8	26.0	319.1± 92.1
⑥菌床移植・ラップ区	9	27.0	528.4± 34.0
⑦菌床移植・再封区	9	30.0	617.0± 65.7
⑧発生良好菌床区	24	9.6	692.9± 72.1

2. 奇形子実体発生菌床における品質向上技術の開発

良好な子実体発生が認められず、団子状やカリフラワー状の奇形子実体が発生する菌床において、菌掻きや被覆等による発生処理方法により、良好な子実体を発生させる手法を開発するための試験を行ったところ、処理区③～⑤については団子状などの奇形子実体の発生は見られず、正常子実体が 367.7±136.2 g～472.2±75.7 g 発生した。

以上のことから、菌床表面をカットし覆土、再封、埋込を行うことにより団子状奇形子実体の発生を防除し、正常なものと比べ発生期間は長くなるものの、良好な子実体を発生できることを確認した。

表-2 各処理区における子実体発生量

処 理 区	供試数 (個)	発生日数 (日)	正常子実体 発生量(g)	不良子実体 重量(g)
①不良菌床未処理区	12	14.3	452.8±196.7	105.0±136.2
②削取区	6	26.0	80.7± 78.8	220.0±121.4
③削取・覆土区	12	23.0	396.3± 54.3	0±0
④削取・再封区	6	33.5	367.7±136.2	0±0
⑤削取・埋込区	12	31.3	472.2± 75.7	0±0